



ひょうご環境保全創造活動助成 活動報告書

団体名	自然観察実験塾		
団体の所在地	(市区まで可) 兵庫県相生市	代表者名	川本 浩司
1. 事業名	自然観察実験塾の立ち上げ		
2. 実施期間	2016年4月1日から2017年3月31日まで		
3. 主な実施場所	ひょうご環境体験館、才元の里 相生市立ふるさと交流館		
4. 活動形態	・ 団体立ち上げ ・普及啓発活動 ・ 実践活動 ・ 調査活動 ・環境パートナーシップ事業（協働団体名： ） ・その他（ ）		
5. 活動内容・結果 (参加者、階層・人数等)	助成を受けて実施した活動内容を記載して下さい。 ① 2016年8月20日、総会準備を経て第1回の総会を開催し、会則等の承認を得て『自然観察実験塾』を立ち上げた。 ② 夏休みの理科教室(「アゲハチョウの飼育と観察」と「プラナリアの再生実験・水生昆虫」等)をひょうご環境体験館で開催した。NPO科学教育研究所の協力を得た。参加者:生徒77名、保護者:62名 ③ 冬を越す生命の連続を学ぶ「アゲハチョウの越冬戦略」(参加者:生徒7名、保護者7名)や兵庫県の天然記念物である「コヤスノキ」の育成と保存の研修会(参加者8名)を、11~12月に開催した。 ④ 1月末、新年会員宿泊研修会を開催した。会員他6名が参加。「相生湾でのアマモ繁殖」や「生物遺伝資源について」の活動内容を聞き質疑応答した。今後の活動に関する議論の後、翌日、コヤスノキの現状を近くの神社等で視察・調査した。		
6. 成果・反響・反省点等	環境保全活動としてどのような成果があったかを記載して下さい。 普段生物は大切にという指導の多い中、いくら切ってもよいという「プラナリアの再生実験」では、次々と切断する位置や角度を変えながら切断していた。各自が各自の考えでどう切断すれば、どんな再生が起こるかを考えながら行う実験を重要視したい。 動画で「アゲハチョウの幼虫の脱皮」、「蛹化前の糸かけ・糸くぐり」、「蛹からの羽化」を見せたところ、食い入るように画面を見つめていた。この熱意を良いものになりたい。 サナギを各参加者に手渡し、羽化の瞬間の観察に期待し、年明けの春には越冬の現実を目の当たりにすることだろう。その成果について確認し、今後は自らその成果をプレゼンテーションするように指導したい。 プラナリアの採集時には水生昆虫の観察も指導した。身近な観察場所が豊富にあるようだが、指摘や指導が必要であるため、アゲハチョウや他の昆虫、草花の学習が遊びながらできる自然体験公園を作ることができれば非常に魅力的である。		
7. 成果物	これらの活動が主体となる中で、「自然観察実験塾」のホームページ等を充実させる予定である。すでに作成している「春休みの理科実験」、「夏休みの理科実験」に加え、「冬休みの理科実験」を今後作成するとともに、継続して改訂し、充実させる。		
8. 活動写真説明 (20字以内)	プラナリアの2種(左)と再生中の姿(右2枚) 	羽化直後のキアゲハ成虫と羽化直前のサナギ 	天然記念物コヤスノキの保存募集ポスター 